

【タイトル】 最新工場＝人

パラマウントベッド株式会社 千葉工場を見学

青年部会 企業見学研修会

【日 時】 平成 26 年 4 月 4 日

【場 所】 パラマウントベッド株式会社 千葉工場・松尾工場

【概 要】

千葉は山武市の長閑な風景の中に現れたのは、白を基調にブルーの企業ブランドが彩られた風格ある工場だ。整備された広大な敷地の一角にバスが到着する。凜とした空気を感じる。江東区東砂に本社をもつ会員企業のパラマウントベッド株式会社 千葉工場の見学に訪れた。

最初に目に入ったのは工場建屋内に巡らされたダクトを木に見立て、果実がなっているイラストが描いてあることだ。どこかほっとする。木村社長の、無機質になりがちな工場の風景に少しでも潤いをとの思いからそうしているようだ。



同社は2006年の医療制度改革にともなう市場環境の変化に対応するため、生産工程の改善に取り組む。重要な点はそれが小手先の改善ではなかったことだ。自動車工場をヒントに莫大な投資を行って、多くの部門に分かれていた工程を一貫生産方式(たくさんのハンガーに部品を引っ掛け、工場の各工程を自動で巡る)に改革。ラインの総延長は数 km にもなるようだ。これによりかつて1台のベットが完成するまでに5日掛かっていた納期を**6時間(!)**に縮めることを実現した。



しかし設備投資をしたから工場が順調に稼働するわけでも、納期が劇的に短縮されるわけでもないはずだ。その秘密は工場を巡るうちにわかってくる。極小のネジひとつ、工具一本まで管理する5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の徹底と、日々データを取り、“カイゼン”を積み重ねる日本ならではの、パラマウントベッドならではの人の力だ。



こんにちは！ 工場を歩くといたところで工員さんたちがいったん手を止めて自然な笑顔の挨拶をしてくれる。フォークリフトからわざわざ降りて挨拶をする。工場とは効率を最重視する職場であると思うが、ここでは礼儀がその上位にある。

そのような社風、人財力のルーツはどこにあるのか。創業の頃からの歴代のベッドを展示する工場敷地内の記念館を訪れた際に感じたのは、ベッドに伏せる人と支える家族の労苦を少しでもやわらげたいという**創業者・木村 隆輔 氏**の深い念いだ。その念いが工場で働く一人一人に受け継がれ、社風となり、最新の工場をも動かしているのだと強く感じた。(佐)

